

上の湯地区既存井現況調査に関する地元説明会（開催結果）

1 開催日時：令和元年7月30日（火）18：00～

2 開催場所：上の湯会館

3 開催内容

（1）開 会

（2）挨拶

八雲町商工観光労政課長

（3）調査概要説明

①事業者より説明

アーストラストエンジニアリング（株） 福井氏

別紙資料に基づき説明

■説明要旨

●調査対象井概要について説明

●上の湯地区における泉源の位置関係について説明

●影響試験について説明

- ・北海道発行の温泉関係事務の手引き影響試験指針では調査対象井周辺500m以内の源泉の影響調査の実施を求めているが、今回の調査においては1000m以内と範囲を拡大し実施、また、源泉所有者の希望があれば、1000mの範囲外も実施。基本的には温度と自噴量を測定する。

●取水層の比較

- ・調査対象井と1000m以内の泉源については取水層に違いがある。

●泉質の比較

- ・調査対象井と1000m以内の泉源については泉質に比較的大きな差異がある。

●まとめ

- ・井戸深度、取水深度、取水層泉質について、調査対象井と1000mの範囲内の泉源では違いがある。

●調査内容

- ・期間は令和元年9月～10月を予定
- ・調査対象井のバルブを3段階で開放、各段階ごとに7日間程度調査。
- ・流量、温泉、泉質について調査

②北海道立総合研究機構地質研究所よりコメント

- ・地質研究所は古くから、函館湯川温泉など北海道の主要な温泉地および市町村の泉源などにおいて、温泉の調査・研究を行ってきた。
- ・上の湯地区の温泉資源については、今回提案のあったような詳細な調査をした実績はないので、現状を把握する上では貴重な機会であると考えます。
- ・今回の調査を行うことで、源泉所有者にも非常にメリットがあると思う。
- ・普段疑問に思っていること、井戸の扱いなどについて、良い機会なので調査事業者に聞いてほしい。
- ・地区としては、調査をすることによって、温泉資源の現状、地下の構造および温泉資源の生成・湧出機構などそういったものを総合的にイメージできることで地区の温泉がどのようなものなのかが見えてくる。
- ・影響の有無について、科学的なデータでお示ししていきたい。

(4) 質 疑 等

質問① 既存の泉源は取水層、泉質が全て少しずつ差異があるので、今回の調査によって周辺泉源にはおそらく影響はないだろうということか。

回答① 予想としては影響はそこまで大きくないだろうという仮定です。

質問② 予想（仮定）ありきで進める調査と影響のある可能性を踏まえての調査では調査の精度が変わってくるのではないか？

回答② 予想ありきの調査ではなく、影響する可能性は秘めているという前提で調査を行う。

質問③ この井戸（町所有井戸）は町で活用する予定はあるのか。

回答③ 今すぐこの井戸を活用する予定はない。今回の調査はこの井戸を埋めるか、活かすかを判断するため、周辺泉源へ及ぼす影響と、影響を及ぼさないのであればどれだけのポテンシャルがあるのかを調査する。影響がなく、ポテンシャルがあると客観的に判断される場合は、地域の共有財産であるので、地域の皆様と活用方法を協議していく。

質問④ 調査は泉源所有者が行う必要があるのか。

回答④ 町から調査事業を受託している事業者（アストラストエンジニアリング(株)）が行う。

質問⑤ 調査期間は7日間か。

回答⑤ 町所有の井戸を3段階でバルブを開けていき、各段階で1週間程度、20日くらいの調査となる。

質問⑥ 自分たちの泉源に影響がでるのではないかとどうしても不安になってしまう。調査は自治体が主体となって実施していくのか。事業者任せにならないか。

回答⑥ 井戸の所有者は町であり、事業主体はあくまで町である。ただ、専門的な知識もないので、調査部分については専門会社をお願いしている。町主体であるため、今回の説明会についても町主体で開催している。調査の状況報告、調査後の方向性の検討についても町が最後まで行っていく。また、公的なアドバイザーとして北海道立総合研究機構地質研究所にもご協力いただいている。

(5) 閉 会